

## 講演会要旨

開催日：2003年2月26日（水）午後4時30分～午後7時10分

会場：神奈川大学人文学研究所資料室（17号館216号室）

講演者：佐佐木茂美氏（明星大学大学院教授）

演題：「地上の楽園」と二本の樹—生命の樹と知恵の樹—

ヨーロッパ文学における「自然」というテーマを求めて、あるいは環境科学の根本精神について思案を深めたく、あるいは中世フランス語に対する興味を抱いて、参加者は集まった。講演を聴くうちに、講演者により繰り広げられる緻密で広い学識によって、思いがけずはるかに深い世界にまで招き入れられた、というのが参加者の大方の感想ではなかったろうか。

講演内容は、つまりは、13世紀前半に書かれた作者不詳の『聖杯の探索』の物語に見られる、根源的なテーマである「地上の楽園と樹木」についての論考である。その検証を正確になすために、講演者はこのテーマをめぐる始原にまで遡るのである。『創世記』、『聖書外伝』、中世の教父たちの著述、民間に流布した書物を検討する。楽園を放逐されたアダムとイヴおよび三男セツと「楽園と樹木」とが、それぞれのテキストにおいてどのような記述をされているか、について周到な検討を加えるのである。

始原についての論考が語られ、いよいよ本題である『聖杯の探索』について述べようという時には、既に2時間が経過していた。

（文責：佐藤夏生）